

玉名高瀬蔵「第12回高校生デパート“若蔵”」 ～玉名市の商業系高校3校による合同販売実習～

(熊本県立北稜高等学校・ビジネスマネジメント科)

1 玉名高瀬蔵と3校合同販売実習について

かつて菊池川の水運で栄え、老舗商店が立ち並ぶ高瀬地区のNPO法人高瀬蔵。高瀬目鏡橋をはじめ、江戸時代からの石橋や石垣、古い商家が残り、明治初期の建築ともいわれるこの”蔵”は、当時は米蔵や肥料倉庫として使われており、懐かしい時代を漂わせています。

玉名では、毎年5月下旬から6月上旬に「高瀬裏川花しょうぶまつり」が開催されており、そのイベントの一つとして、地元玉名を高校生の力で盛り上げようと、北稜高校・専修大学玉名高校・玉名女子高校の3校が一同に会して「高校生デパート“若蔵”」販売実習を開催しています。

2 高校生デパート”若蔵”に向けて

毎年、高瀬蔵で「高校生デパート”若蔵”」を開催していましたが、昨年度は熊本地震の影響で開催することができませんでした。そのため、北稜高校単独で、「がんばろう熊本復興支援販売実習（チャリティー販売実習）」をサンロード新市街において実施しましたが、今年度は高瀬蔵が使用できるようになりました。



(昨年度) 復興支援チャリティー販売実習

「高校生デパート“若蔵”」のイベントを成功させるために、3校の各代表生徒は、事前準備打合わせ会議を4月19日(水)、5月19日(金)、5月30日(火)の3回に渡り実施し、販売会場となる多目的ホールの店舗レイアウトや商品陳列、商品・備品類の搬入搬出計画や役割分担等について、開催に向けた企画・立案作業に取り組んで行きました。また、6月6日(火)には、開催当日の開店式や場内アナウンス等についてのリハーサルも行いました。

3 高校生デパート”若蔵”販売実習の取り組み



「高校生デパート”若蔵”」(仕入商品販売)

販売商品については、生徒自ら仕入れた商品を販売するために、広報やPOP広告、商品陳列や接客方法などに工夫を凝らし、マーケティング戦略や販売促進活動等について、授業で学んだ知識や技術を生かして、販売実習に取り組みました。多目的ホールでは、開店と同時に大勢のお客様に、みんな“おもてなしの心”で、「いらっしゃいませ」、「かしこまりました」、「少々お待ちください」、「ありがとうございました」等の元気で明るく、清々しい声が、販売会場全体に響き渡っていました。



「高校生デパート”若蔵”」(農産物販売)

商品アイテムは58種で、地元商店から仕入れた柚子大根・チーズ饅頭・磯辺焼き・あずま団子・高瀬飴・蜂蜜等の仕入商品、北稜高校農産物のスイカ・トウモロコシ・タマネギ、花卉のマリーゴールド・メランポジウム・ハイビスカス等を販売し、一部の委託販売商品以外は、全て完売することができました。今回の販売実習を通して、お客様の喜びが売りに上げに繋がること、笑顔でのサービス、コミュニケーションの大切さ等、多くのことを学ぶことができ、大変充実した販売実習となりました。